

とうきょう すくわくプログラム実践報告書

所在	東京葛飾区東金町 4-16-12
園名	アスクかなまち保育園

1. 活動のテーマ

日本と外国の違いを知る

園内にある地球儀や国旗カルタ、絵本を利用して子ども達の興味、関心を引き出す

<テーマの設定理由>

オリンピックイヤーがあり、外国について知ることによって世界に目を向ける

2. 活動スケジュール

11月から3月まで行ない、月に1度英語講師を招致し、外国の国旗、文化に触れる機会を創出した。また、その際、子どもたちの興味関心をもとに保育士と英語講師と共に問いかけや内容を考え、子どもたちの反応や言葉によって次回の内容を柔軟に変えていけるようにしていく。

11月、3～5歳児それぞれで日本とアメリカの国旗、食べ物、有名なもの、スポーツを学ぶ

12月、国旗カードや地球儀を使って国旗と国名を一致するよう学ぶ

1月、自分で考えた国旗を形にする

2月、3月では、3歳児は国の場所を学び、講師と一緒に簡単な文章を話して英語の言葉を学ぶ。4、5歳児は講師の問いかけに文章で答えて学びを深める

3. 活動のために準備した素材や道具、環境の設定

地球儀、国旗カード、国旗カルタ、クレヨン、色鉛筆を用意した。
子どもたちがイメージしやすいような声かけし、配慮した。
また、活動に集中しやすいよう静かな環境を設定した。

4. 探究活動の実践

<活動の内容>

【3 歳児保育実践分】

問いを考える：外国の文化や国旗はどんなものがあるのかな？

探求活動の様子：まず、日本とアメリカの文化、国旗の違いを学んだ。学んだあとは、日常生活の中で国旗カード、国旗カルタ、地球儀を使って日本以外の国の存在に気付いた。国旗を見て、該当の国のスポーツ、食べ物、有名や関係が深いものを一緒に考えていた。回数を重ねていくうちに国旗を増やし、複数の外国に目を向けられるようにした。国旗を学んだあと、自分自身で国旗を考え、イメージを広げた。国旗について学びを深めたあと、英語講師と一緒に英語を話し、文化に触れた。英語講師と一緒に国旗や英語を学んだことで、英単語だけでなく、英文を話すことにも興味をもって話す姿みられた。

振り返り（保育士の気付き）

英語講師とのやりとりを通し、国旗を知るだけでなく、文化やスポーツ、食べ物などの違いを子どもたちが学んだことで、外国の文化や国旗について視点を広げられるようになった。また、英語でのやり取りを通し、日本語以外の言葉にも触れ、自ら使うようになった。



【4歳児保育実践分】

問いを考える：外国の文化や国旗はどんなものがあるのかな

探求活動の様子：まず英語講師が日本とアメリカの国の違いを視覚的にわかりやすいよう問いかけた。講師と一緒に国旗の種類を増やし、食べもの、スポーツ、有名なものを学んでいった。また、自園にある地球儀や国旗カルタ、国旗カードを使って学びを深めると自分たちで外国や外国文化について自ら考えようとするようになってきた。他にも外国の文化だけでなく、自分で国旗を作る活動を取り入れたことで、国旗への興味を深められた。英単語だけでなく、英文でのコミュニケーションを積極的にとり続けると、以前よりも英語講師とのやりとりを楽しそうな姿が見られるようになった。



【5 歳児保育実践分】

問いを考える：外国の文化や国旗はどんなものがあるかな？

探求活動の様子：日本とアメリカの文化、国旗の違いを学んだ。学んだあとは、日常生活の中で国旗カード、国旗カルタ、地球儀を使って日本以外の国の存在に気付いた。国旗を見て、該当の国のスポーツ、食べ物、有名や関係が深いものを一緒に考えていた。回数を重ねていくうちに国旗を増やし、複数の外国に目を向けられるようにした。国旗を学んだあと、自分自身で国旗を考え、イメージを広げた。国旗について学びを深めたあと、英語講師と一緒に英語を話し、文化に触れた。英語講師と一緒に国旗や英語を学んだことで、英単語だけでなく、英文を話すことにも興味をもって話す姿みられた。

振り返り（保育士の気付き）

英語講師とのやりとりを通し、国旗を知るだけでなく、文化やスポーツ、食べ物などの違いを子どもたちが学んだことで、外国の文化や国旗について視点を広げられるようになった。また、英語でのやり取りを通し、日本語以外の言葉にも触れ、自ら使うようになった。地球儀や国旗カルタなどを使うことで日本以外の国への学びを深められたように思う。今後も、日本の文化を大切にしながら、海外の文化、言葉への興味関心を広げられるようにしていく。



とうきょう すくわくプログラム実践報告書

所在	東京葛飾区東金町 4-16-12
園名	アスクかなまち保育園

1. 活動のテーマ

音楽絵本を創ろう

(テーマに関する子どもの興味関心、園の特色など)
身の回りにある様々な音や音楽に興味を持ったり、自分なりに表現したりする

<テーマの設定理由>

絵本の情景や登場人物の気持ちなど、イメージしたものを身近なものや楽器で表現する

2. 活動スケジュール

11 月から 3 月まで行い、月に 1 回音楽の講師を招致し楽器の演奏や歌声など本物に触れる機会を創出した。

11 月は、音楽講師の呼びかけによって、イメージできる音を描いたり気持ちを木のシールを使ったり、音楽を聞いてイメージしたものを絵にする

12 月は、園内外問わず、音を見つけシールや絵にするだけでなく、トライアングルやタンバリンなど楽器を使って表現する。

1 月から 3 月は、絵本を聞きながら講師が考えた音を流し、自分たちで考えた音を付けてすべての絵本に BGM や効果音をつけていく。また、3 歳児は、生活発表会の題材をつかってよりイメージしやすく設定した。

3. 活動のために準備した素材や道具、環境の設定

タンバリンや鈴、トライアングル、ミュージックパッドを用意する。
楽器だけでなく、廃材や木の棒など身近な物も使って音が出るものを用意する
音の探求活動をする際は、室内環境を静かにし、音を聞けるようにした。
モバイルスクリーンを用意して大画面で絵本を映し出した

4. 探究活動の実践

【3 歳児実施分】

問いを考える：生活の中にどのような音が聞こえているのか、聞こえた音はどのような色、形なのかを考える。

探求活動の様子：を色塗りをし、音を聞いてイメージする、形にしていって。また、園内外で聞こえる音に興味をもつような声かけをし、子どもたちの興味を引き出した。発表する場を設け、友だちの興味やイメージにも関心が持てるように進めていくと、絵本の読み聞かせしながらも、音を聞き、音を鳴らすことを楽しそうにしていた。自分たちで音をつけていくことで音を創ることに興味を引き出していった。

振り返り（保育士の気付き）イメージしたものを形にする経験を増やしたことで「これはどんな音に聞こえるかな?」「目、とじてみたら聞こえるよ」など、話し、意欲的に参加する子どもが増えた。今後も、日常の中で音探しを取り入れ、音楽絵本創りにつなげていく。



【4歳児実施分】

問いを考える：聞こえる音を、クレヨンを使って描き、イメージし、音を創るには？

探求活動の様子：

スピーカーから聞こえる音を形にする経験を何度かしていき、音を聞く体験を増やした。また、楽器や身近な物で音をだす楽しさを体験していくことで楽器を鳴らすだけでなく、リズムを感じたり合わせたりした。絵本の題材を「ブレーメンの音楽隊」にしたことで動物にもなりきる体験もした。劇遊びと楽器遊びが一緒になったことで子どもたちはイメージしやすくなったようだった。

ふりかえり（保育士の気づき）最後に感想を聞く活動を取り入れることで、発表する楽しさも味わえた。自分たちで考えて音を見つける体験は、子どもたちの中で人間関係を育み、表現遊びに深みをもてる探求活動となった。今後も、子どもたちの興味を引き出し、探求活動を続けていく。



【5 歳児実施分】

問いを考える：聞いた音をイメージして形にするには？どんな音があるか見つける
探求活動の様子：まず、様々な音を流してイメージしたものを形にし、紙に描く。書いた後は、みんなで発表した。次は、音を自分で作り、見つけてみる。馴染みのある「クレヨンのくろくん」の絵本を使い、音を加えて読み聞かせを行う。馴染みのある絵本をとりいれたことで、音を加えてもスムーズに進められた。廃材の音探しをしたときは「そうそう、これがあったよね」「ここは大きい音にしようかな」と考えていた。

ふりかえり（保育士の気付き）

音楽絵本にでてくる動物になりきったり、音を見つける活動を取りいれたりすることで友だちと一緒に表現すること、楽器を鳴らすことなどを楽しそうに探究活動に参加していた。今後も、子どもたちとの探究活動を深めていく。



とうきょう すくわくプログラム実践報告書

所在	東京都葛飾区東金町 4-16-12
園名	アスクかなまち保育園

1. 活動のテーマ

色々なボールに触れてみよう

(テーマに関する子どもの興味関心、園の特色など)

日常にボールを使って遊ぶ活動を取り入れる。大、中、小のボール、二つ繋げたボールを用意する。ボールを投げられる環境を整える。

<テーマの設定理由>

ボールの形に興味をもち、どんな形でどのように転がるのかなどに興味をもつ

2. 活動スケジュール

11 月から 3 月まで行い、月に 1 回体操の講師を招致し身体の動かし方についてこどもたちの前で実演をしたり、探究心を書き立てる。

11 月は、体操講師と一緒に肩を回す動きを中心にボールを投げる事を意識できるようにする。

12 月は、投げやすいボール、蹴りやすいボールを試す。

1 月は、投げにくい、蹴りにくいボールを試す。

2 月、3 月は自分たちで作ったボール、様々なボールを用意して探究活動をする。

3. 活動のために準備した素材や道具、環境の設定

大中小のボール、とても大きなボール、廃材で作ったボール、広いスペースを用意した。フラットマーカー、エアボールゲームセット、マットも用意した。

4. 探究活動の実践

【3 歳児実施分】

問いを考える：強弱をつけてボールを遠くに飛ばす方法を知る

探究活動の様子：様々なボールを投げる活動を取り入れることで、ただ投げるだけでなく、的に向かって投げるようになる。また、粘土やブロック、折り紙など自分で作ったボールを実際に投げることでどのようなボールの軌道が出来るのかを少しずつ考え、見つけるようになる。

ふりかえり（保育士の気付き）

最初は、ボールを投げたり、作ったりすることに戸惑っていたが、回数を重ねていくと子どもたちなりに理解し、自分たちで探求する姿がみられた。今後も、体の使いかたを知らせながら今後もボールの探求活動を進めていく。



【4歳児実施分】

問いを考える：ボールを遠くに投げたり蹴ったりする方法を知る

探究活動の様子：様々なボールを投げたり、蹴ったりする活動を取り入れることで、的に向けて投げたり蹴ったりするようになる。ゲーム遊びを取り入れることでボールの探究活動を深めた。また、「どうやったらできるかな」「どうやったら入るかな」など、子どもたちで話しながら進めていた。

ふりかえり（保育士の気付き）

最初は、ボールについてこちらが様々なことを提供したが、少しずつ自分たちで考えて取り組むようになった。また、ボール作りも、子どもたちが考え取り組むようになった



【5 歳児実施分】

問いを考える：ボールを遠くに投げたり蹴ったりする方法を知り、学ぶ

探究活動の様子：体操講師と一緒にボールを投げることで、体の使い方を学ぶ。また、様々な形のボールをとりいれたことで蹴りやすいものや蹴りづらいものを学んでいた。形だけでなく、重さも考えるようになり、自分たちで「これは重いから遠くいかないね」「これは投げたらどうなるだろう」と話す姿も見られるようになった。

ふりかえり（保育士の気付き）

保育者の投げかけで、自分たちで考えてボールの重さや大きさ、ボールの動きを考え、探究活動を深める姿をみて成長を感じた。今後もボールを投げたり蹴ったりすることを「なぜ?」「どうして?」って思えるような声かけや保育の設定をしていく。

